令和７年度の具体的な学校経営目標・計画　最高目標『行きたくなる学校』学びたくなる授業、共に学び、教わりたいと思える仲間、先生のいる学校

〈評価規準〉　Ａ：目標を上回った　　Ｂ：ほぼ目標どおり　　Ｃ：目標を下回った

岡山県立岡山御津高等学校

**１　学校が楽しいと思える生徒の育成（生徒が行きたいと思える学校づくり）**

（１）わかる、できるようになる授業づくり　　（２）良好な人間関係ができる学級経営と学習集団づくり　　（３）寄り添い支援する教員姿勢と教育相談

| 担当 | 目標・現状 | 具体的計画 | 今年度の達成基準 | 中間達成状況 | 評価 | 最終達成状況評価 | 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教務課 | （１）<br>①学習５や授業を受けるときの５つの約束、生徒指導の４つの視点を活用した授業づくりをしている。<br>②端末（アプリ）の活用は教員によって差がある。<br>③授業アンケートを実施し、授業改善につなげる。 | ①授業力向上についての研修を学期に1回実施<br>②上記の研修と連動させ、端末を活用する機会を提案する<br>③授業評価委員会と連携し、授業アンケートを年間5回実施する | ①向学校アンケートの「授業がよくわかる」の質問、学校自己評価アンケートの９の質問の肯定回答率が８０＆以上<br>②すべての教員が、学期に１回以上端末やアプリを使った授業を行う<br>③考査ごとに授業アンケートを実施し、授業力の向上につなげる | | | | |
| 生徒課 | （２）<br>①人間関係が閉鎖的であり、自ら人間関係が広がっていきにくい一面がある。その一方、依存的な人間関係を築いてしまうという課題もある。 | ①　発達支持的生徒指導の推進<br>・学校行事を工夫し、つながりを生む取組みを行う。<br>・LHR や SST 等で、適切な人間関係構築スキルを獲得させる。 | ①<br>・向学校度アンケートの該当項目の肯定回答率が 75%以上になる。<br>・アセスにおいて「友人サポート」と「向社会的スキル」の数値（学校平均）が 50 を超える。 | | | | |
| 進路課 | （２）<br>①希望する進路の実現に向けてモチベーションを維持しつつ、見通しをもって学習活動を継続していくことが苦手な生徒が多い。 | ①6月･11月の進路面談や LHR、日常の働きかけを行うことで、進路意識を高め、進路実現のための具体的な身通しを持たせる。教科担当者と連携して、見通しをもって自分の必要な補習その他学習活動に取り組ませる。 | ①学校自己評価アンケートで進路意識に関する項目の肯定的回答率が 80%以上になる。進路ノートをホームルーム等(進路マップ前後と各学期末。計５～６回程度)で活用させることにより、学習の計画の立案・見直しができている。 | | | | |
| 学校生活サポートルーム | （３）<br>①悩みや不安なことを自分から教員に相談できる生徒も多いが、一人で抱えてしまい、休みがちになる生徒も少なくない。<br>②生徒と信頼関係を築きながら、より良い方向へ導く支 | ①各課と連携し、生徒の変化に気づく観察力を高める。<br>②面接週間、思春期サポート事業、学校生活サポートルームの運営などを通して、生徒自身の自己受容と、精神的な成長を促す。 | ①向学校度アンケートの「先生からの理解」「先生に相談したい」など、該当項目の肯定回答率が８０%以上になる。 | | | | |
| 産社・総探・地域連携 | （３）<br>①産社・総探での学びを充実させて、自己決定の機会を増やし、自己肯定感や自尊感情のさらなる高まりにつなげる。 | ①　産社・総探・ＬＨＲの年間計画に基づき、年次をまたいだ活動や発表活動の機会も設定して、自己肯定感や自尊感情を高める。 | ①　学校評価アンケートで「ルネス学、産業社会と人間、社会貢献活動など、体験的な学びにしっかりと取り組むことができる。」の肯定回答率が８０%以上。また、各年次で地域の方や企業の方と関わって活動したり、自己の在り方について考えたりする機会が年間３回以上。成果の発表の機会が１回以上。 | | | | |

## 2 「これでいいのか」と常に自問する生徒の育成

（１）自分の今を常に問う姿勢、思考を大切にする人づくり（管理から自律へ）　　（２）目標、夢を掲げ、努力する姿勢を応援し続ける

| 担当 | 目標・現状 | 具体的計画 | 今年度の達成基準 | 中間達成状況 | 評価 | 最終達成状況 | 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教務課 | （１）<br>①知識技能の習得が重視された授業が多く、授業で主体的に取り組んだり、発表したりする機会が少ない。<br>②振り返りの充実 | ①授業に関する教員研修で各教科の授業で主体的に取り組んだり、発表したりする場面の好事例を共有する<br>②ワークシートや端末の活用で振り返りの機会を設けるとともに振り返りの方法の好事例を共有する | ①学校自己評価アンケートの７の質問の肯定回答率が７０％以上になる。<br>②学校自己評価アンケートの１１の質問の肯定回答率が７０％以上になる。 | | | | |
| 生徒課 | （１）<br>①　「正しさ」やルール遵守の意識が定着していない<br>②校則検討委員会の今後の活動方針が定まっていない。 | 学級経営の工夫と生徒会活動の充実<br>①<br>・２Rs（Rule と Relation）を大切にした学級経営を行う。<br>・全校集会などを利用し、全校で基準を定めたり、確認したりする。<br>②生徒会執行部や専門委員会と連携し、より多くの生徒の意見が反映されるようにする。 | ①・向学校度アンケートで教員との関係性に関する項目で肯定回答率が７０％以上になる。<br>・向学校度アンケートで校則に関する項目で肯定回答率が８５％以上になる。<br>②新しいルールを制定するだけではなく、既存のルールを周知徹底する取組を行っている。 | | | | |
| 進路課 | （2）<br>①学校生活全般において受け身で、積極的な取り組みができにくい。日々の生活の取り組みが、希望進路の実現や将来の自分像にどう結びつくのかがイメージできない。 | ①進路マップの振り返りや進路ノート・スケジュール帳の活用を通じ、具体的な目標設定をして学習や探究活動などに取り組ませることで、希望進路の実現と日々の取り組みを結びつける。 | ①学校自己評価アンケートの「自分の目標達成のために必要な手段や自分の課題を考えることができる」の項目で、肯定回答率が 80%以上となる。 | | | | |
| 学校生活サポートルーム | （1）<br>①過去2年の傾向として、学校生活サポートルームを利用する生徒が、一時的に過剰な利用になったり、教室に入りにくい状況に陥ったりすることがある。 | ①サポートルームの利用について、時間割を確認しながら自分で計画を立てさせ、生徒が実行するための支援方針について検討する。<br>・生徒自身の目標について考える意識と、現在の自分を振り返る意識とを高めさせる。 | ①支援者リストや生徒支援会議を通して支援係と学年団・担任とが連携し、早期対応ができる。<br>・学校自己評価アンケートで、①「自分の課題」、⑭「安心できる場所」の項目で、生徒の肯定回答率が80%以上になる。 | | | | |
| 産社・総探・地域連携 | （２）<br>①産社・総探で学ぶことで、将来の目標や夢を見つけ、進路実現に向けて努力することができる。 | ①社会人講師による講演会や、地域の工業団地の見学、地域での貢献活動等の機会を各年次で設定する。 | ①向学校度アンケートの「みんなで何かをするのは楽しい」の肯定回答率が８０％以上になる。また、活動の成果を発表することができている。 | | | | |

## 3　自分のよさに気づき長所を伸ばそうと努力する生徒の育成

（１）自分のよさに気づくことができる授業と特別活動　　（２）生徒の長所に気づかせ伸ばすことのできる進路ガイダンス

| 担当 | 目標・現状 | 具体的計画 | 今年度の達成基準 | 中間達成状況 | 評価 | 最終達成状況 | 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教務課 | （１）<br>①授業を通して学んだことやわかったこと、できるようになったことが自覚できる。<br>②授業で共感的な人間関係づくりを行い、自他の良さに気づかせる。 | ①授業において形成的評価を行う声かけを実施したり、振り返りコメントを返したりと生徒ができたこと、成長したことを自覚させる。<br>②ペア学習やグループ学習、協働的な活動など学習形態を工夫した授業を行う。 | ①向学校度アンケートの「授業がよくわかる」の肯定回答率が８０％以上になる。また、授業アンケートにおいて「授業を受けて学力や技能の向上を感じますか」の肯定回答率が８０％以上になる。<br>②学校自己評価アンケートの１０の質問の肯定回答率が８５％以上になる。 | | | | |
| 生徒課 | （１）<br>①　適時適当な内容の LHR が実施できておらず、後手の指導になっている。<br>②　自分の良さを披露する場面が少なく、披露する対象も限定的である。 | LHR と学校行事の充実と工夫<br>①　性教育、いじめ、交通の LHR を戦略的に配置し、安心した生活を送れるスキルを獲得させる。学校祭のさらなる充実を図り、保護者や地域の方々に生徒の良さを見てもらえる機会を創る。 | ①　生徒の実情にもとづいた性教育実施計画書を作成し、LHR と各教科を連携させ、適切な内容とタイミングで実施できている。向学校アンケートで「文化祭、体育祭、球技大会等の行事は楽しい」と「文化祭、体育祭、球技大会等の行事に積極的に参加する」の肯定回答率が 80％を超えている。 | | | | |
| 進路課 | （2）<br>①　進路意識や進路先の理解が不十分で、自分の長所が生かせる進路先が見いだせていない生徒が多い。 | ①キャリアガイダンス・進路ガイダンス・進路フェスタの実施。他部署（教科や年次団）と連携し、企業や地域の方に直接接することができる機会を設ける（御津トーク的なもの）。 | ①それぞれの事後アンケートやまとめプリントに、進路意識の向上や希望分野の理解の深化が見られる。 | | | | |
| 産社・総探・地域連携 | （1）<br>①　地域の方や企業の方と関わった経験を適宜振り返ったり、まとめたりして校内外で発表する。 | ①　各年次において、発表活動の機会を設定する。 | ①　年間で一人が複数回、地域の方と関わったり、校内外で発表したりする活動ができている。 | | | | |

## 4　同僚性を大切にする職場風土

（１）それぞれのキャリアやスキルを尊重する風土　　（２）令和型の学校に向かい学ぶ姿勢を大切にする風土

| 担当 | 目標・現状 | 具体的計画 | 今年度の達成基準 | 中間達成状況 | 評価 | 最終達成状況 | 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教務課 | （1）、（2）<br>①それぞれの先生の良さやスキルが共有できていない。<br>②教職員同士の相互補完が行われ、心理的安全性をさらに高める必要がある。<br>③オープンスクールなどの広報入試、式典などの各行事の反省を適切に次年度に生かしていくことが必要。 | ①授業公開週間の運用方法を工夫し、相互に授業公開する機会を創出する。<br>②気軽に話ができ、互いに助けを求めやすい職員室風土を醸成する。<br>③業務の見直しや削減などを積極的に実施する。 | ①端末活用や生徒指導の4つの視点型授業などねらいの焦点を絞った授業公開を学期に1度実施する。<br>②学校自己評価アンケートにおける「教員の働きがい」の肯定回答率が80%以上になる。<br>③行事等の反省が、会議等で共有され、次年度の計画に生かされている。 | | | | |
| 生徒課 | （2）<br>情報提供や議論の研修は多いが、その成果を確認・分析をする研修がない。 | ニーズに合った校内研修会の実施<br>考査ごとの研修において次学期の取組につながる内容にする。 | これまでの取組みの効果や、学校課題についてじっくりと考える、校内研修を行うことで次学期や次年度の計画に生かせている。<br>今年度は教員スポーツレク大会を開催する。 | | | | |
| 進路課 | （1）（2）<br>①進路指導や進路を見据えた教科指導の協力体制を強化する必要がある。<br>②　校内外の研修の機会はあるが、受講しにくい。最近の情報に適切なタイミングでアクセスできる体制が必要。 | ①会議や日々の連絡･コミュニケーションを行うことで、適切な場面でより効率的な業務分担を行う。<br>②教員のニーズと都合に合わせて、進学や就職の情報を提供する校内研修の機会を設ける。 | ①定例会議や随時の打ち合わせで、それぞれの担当部署、年次団のとりくみ情報を交換し、手法を学び合うことができている。<br>②進路指導に必要な最新の情報が整理され、適切なタイミングでアクセスできたり、適切な部署･係と連携したりする体制がある。 | | | | |
| 学校生活サポートルーム | （1）（2）<br>対人関係、家庭環境、心身の健康状態など、生徒が、自分の努力だけで学校生活を安定させることができなくなることがある。 | ①SSW, SCの専門的な知識や、医療を含む外部機関との連携を図りながら、それぞれ役割を持ってチームとして支援に当たる。 | ①会議資料や支援リストを活用しながら、定期的に校内で情報交換をして早期対応に当たることができている。また、支援や指導における互いのスキルを尊重、共有しながら、共に学び合う意識が高まっている。 | | | | |
| 産社・総探・地域連携 | （1）（2）<br>① 学校運営協議会でキャリア教育と地域連携に特化して議論を進める。<br>② 産社・総探（ルネス学）における地域貢献の機会を増やし、内容を充実させる。 | ① 長期インターンシップに代わる新たなインターンシップを計画する。<br>② 地域との連絡窓口として地域協働活動コーディネータと協働・連携し、本校に生徒にとって望ましい地域連携の機会を設定する。 | ① 長期インターンシップに代わる新たなインターンシップが長期休業中に設定できる。<br>② ルネス学における地域貢献の機会が昨年度より増加する。 | | | | |